

北九州地区小児科医会会報

(2018年4月号)

発行:北九州小児科医会(元気な子どもたち)

HP: <http://www.genki-kitakyu-ped.com>

会員フォーラム: forum.kitakyu-ped.jp

E-mail: jimukyoku@kitakyu-ped.jp

事務局:大原小児科医院内

福岡県北九州市戸畑区千防1-11-20

北九州地区小児科医会のご案内

第545回(第6回北九州ワクチンフォーラムと合同)

日時 2018年4月17日(火) 19:00～

場所 北九州市立商工貿易会館2階 多目的ホール

講演:「带状疱疹の病態と治療およびワクチンによる予防について」

演者:福岡大学医学部 皮膚科教室
教授 今福 信一 先生

※例会の日程と場所がいつもと違いますのでどうぞお間違えの無いようお願いいたします。

第546回(第48回北九州子どものこころ懇話会合同)

日時 2018年5月10日(金) 19:00～

場所 小倉医師会館 4階会議室

講演:「子どもを暴力から守る
～CAPの紹介と実践」

演者:にじいるCAP事務局長 高松 哲人 先生

※例会の日程がいつもと違いますのでどうぞお間違えの無いようお願いいたします。
※当日会費として1,000円を集めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

4月産業医科大学小児科セミナー

日時:2018年4月26日(木) 18:00～

場所:産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題:予防接種対象疾患の最近の動向
～百日咳の全数把握疾患への変更を中心に～

演者:産業医科大学小児科 保科 隆之 先生

5月産業医科大学小児科クリニカルカンファランス

日時:2018年5月14日(月) 19:00～

場所:産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題:小児リウマチ膠原病診療

～Dr.武井のClinical Pearls～

産業医科大学小児科 伊藤 琢磨 先生

※4月の産業医科大学小児科クリニカルカンファランスおよび5月の産業医科大学小児科セミナーはお休みです

その他の講演会等のご案内

第411回小倉小児科医会臨床懇話会

日時:2018年4月26日(木) 19:00～

場所:国立病院機構小倉医療センター
地域医療研修センター

演題「夜尿症:注意すべき器質的疾患、治療、最近の話題について(仮)」

演者:一枝クリニック 小児科 江島 多奉 先生

1. 会員異動

★山岡浩一先生が退会されました。

★学内異動

下野昌幸：産業医科大学小児科准教授→

エコチル調査産業医科大学サブユニットセンター副センター長（特任教授）

★勤務医退会（3/31 付）

【産業医科大学】

白山 理恵（北海道労働保健管理協会）

【戸畑総合病院】

吉田 卓矢（三菱電機先端技術総合研究所（兵庫））

【小倉医療センター】

澤野 徹（九州大学病院）

松本 翼（大分県立病院）

瀧田 晴加（名古屋）

【JCHO 九州病院】

岡田 清吾（済生会下関総合病院小児科）

飯田 千晶（国立病院機構佐賀病院）

渡辺 ゆか（国立病院機構別府医療センター）

【北九州市立医療センター】

是松 辰哉（九州大学病院）

【北九州市立八幡病院】

沖 剛（国立病院機構福岡病院）

平田衣乃（久留米大学小児科）

青砥悠哉（神戸大学大学院医学研究科小児科学）

小林 優（岡山大学医歯薬総合研究科小児科学）

川口真澄（沖縄県立中部病院小児科）

★勤務医入会（4/1 付）

【産業医科大学】

有留 法史（岡山医療センター）

石井 雅宏（再入会：ヘルスサポートセンター鹿児島）

市川 俊（再入会：旭化成東京本社）

【小倉医療センター】

メイヨー エレン 美智（九州大学病院）

中尾 慎吾（小倉医療センター初期研修医）

東矢 俊一郎（関門医療センター初期研修医）

【JCHO 九州病院】

足立 俊一（呉共済病院）

古賀 大貴（JCHO九州病院初期研修医）

中村 涼子（再入会：福岡市立子ども病院小児神経科）

松岡 良平（再入会：九州大学病院）

藤井 駿介（再入会：九州大学病院）

【北九州総合病院】

山本 昇（再入会：淳風会健康管理センター（岡山））

伊藤 琢磨（再入会：鹿児島大学病院）

【北九州市立医療センター】

武森 涉（鳥取市立病院）

【北九州市立八幡病院】

興梠 雅彦（熊本大学医学部小児科教学教室）

小林 匡（再入会：静岡県立こども病院集中治療科）

福政 宏司（再入会：国立病院成育医療センター集中治療科）

山戸 聡史（四国こどもとおとなの医療センター新生児科）

津田恵太郎（久留米大学小児科）

廣上 昌子（手稲溪仁会病院小児科）

落合 啓太（諏訪赤十字病院初期研修医）

福田 祥子（健和会大手町病院初期研修医）

中村 亮太（北九州市立八幡病院初期研修医）

★勤務医移動（4/1 付）

有門美穂子（慈恵曾根病院小児科→北九州市保健福祉局保健予防課）

千手 絢子（産業医科大学病院→北九州総合病院）

桑村 真美（産業医科大学病院→戸畑総合病院）

田中 健太郎（産業医科大学病院→健愛記念病院）

浅井 完（九州労災病院→産業医科大学病院）

川村 卓（北九州総合病院→産業医科大学病院）

池上 朋未（北九州総合病院→産業医科大学病院）

島本 太郎（北九州総合病院→九州労災病院）

水城 和義（小倉医療センター→北九州総合病院）

白水 優光（JCHO九州病院→小倉医療センター）

岩屋 友香（JCHO九州病院→小倉医療センター）

★勤務医退会（5/1 付）

【産業医科大学】

多久 佳祐（→九州大学病院）

★勤務医移動（5/1 付）

森下 高弘（産業医科大学病院→北九州総合病院）

小川 将人（北九州総合病院→産業医科大学病院）

協議事項：

1. 小児先進都市会議 3月12日

3月12日に北九州市役所にて白幡聡先生会長のもと会議が行われました。

- ① 北九州の専門医レジデント制度、産科連携体制母子医療の検討
- ② 小児救急医療および救急医療ネットワーク（ワークショップ）
- ③ 在宅医療支援事業
- ④ ハローベビーサポート、ペリネイタルビジット事業
- ⑤ 児童虐待防止医療ネットワーク事業
- ⑥ 要保護児童対策地域協議会

以上のような項目で活発な意見交換がありました。小児科医会でも小児在宅医療、ペリネイタルビジット、発達障害児フォローアップを中心に検討していきたいと思えます。（三宅巧）

2. 保育園保健協議会 第14回全国研修会in福岡

吉田ゆかり先生が会頭をされます。

日時：平成30年5月27日(日) 9:00～16:30

会場：北九州国際会議場

事前登録が必要かもしれません。

後日、会員メールで案内があると思います。

報告事項：

1. 学術報告：神菌淳司

今後の講演会の予定です。

5月は子どものこころ懇話会合同の予定です。

7月は産業医科大学担当です。

投薬期間について

前号で長期投薬に関する規則等について概説しましたが、今回は添付文書に投薬期間制限等が記載されている薬品の具体例を紹介します。

傷病名（適応症）によって、投与期限が設定されている薬剤として、オメプラール・タケプロンCapがありますが、胃潰瘍・吻合部潰瘍で8週間、十二指腸潰瘍で6週間、ヘリコバクター・ピロリの除菌補助では7日間とされています。

アシクロビル錠（ゾピラックス他）についても、単純疱疹では原則5日間、造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制には造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで、さらに帯状疱疹については、皮疹出現後5日以内に投与を開始し7日間、ただし、初発型性器ヘルペスは重症化する場合があるため、10日間まで使用可能とされています。なお、「本剤は、主として免疫機能の低下を伴わない患者に適応される。悪性腫瘍、自己免疫疾患などの免疫機能の低下した患者には、アシクロビル注射剤の点滴静脈内投与等を考慮すること」と記載されていることにも留意する必要があります。なお、バラシクロビル（バルトレックス他）は、経口投与後、主に肝初回通過効果によりアシクロビルに加水分解され、アシクロビルとして抗ウイルス作用を発現します。

また、日常用いられている薬剤の中にも、小児用バクシダール錠（7日間）、ジスロマック（3日間）、タミフル（5日間）、カロナール座薬（5日間）等について投与期間が記載されています。

長期投与の代表例が成長ホルモン剤ですが、「使用後は速やかに冷蔵庫に入れ、凍結を避け保存」が原則で、使用期限が、「35日以内」、あるいは「4週間以内」、「42日以内」、「38日以内」と製剤によって異なり、加えて規格（mg）も、5、5.3、6、8、10、12、15と様々に混乱が起こりかねません。いずれにしても、1回の投与量に関わらず、1キットを1か月前後で残量廃棄という事になります。

また、深在性真菌症治療剤であるジフルカン（フルコナゾール）ドライシロップについても、「懸濁液に調製後の保存は、凍結を避け、5℃～30℃で保存し、2週間以内に使用すること」、さらに、ループス腎炎や臓器移植後に用いられるセルセプト懸濁用散については、「調製後の懸濁液は、凍結を避けて室温で保存し、

調製後60日以内に使用すること」とされ、いずれも「処方された服用期限後の残液は廃棄すること」と記載されています。

さらに、尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症に用いられるミニリンメルトOD錠については、「本剤投与中は定期的（1か月毎）に患者の状態を観察し、水中毒を示唆する症状（倦怠感、頭痛、悪心・嘔吐等）の発現に十分注意すること。」と記載されており、30日以上長期投与に適さないものと判断されます。

「薬剤使用の適正化等について」（平成27年11月6日、厚生労働省）においても、「近年、経年的にみて、投薬期間（処方日数）が長くなる傾向がみられる。また、医療機関の規模で比較すると、大規模な病院ほど、慢性疾患の薬剤に関する投薬期間（処方日数）が長い傾向がある。薬を飲み残したことがある患者は半数を超えている。また、投薬期間が長くなること、服用する薬の種類が増えることにより、飲み残しが多くなる傾向がある。」と現状・課題について述べられています。なお、2016年度診療報酬改定で、「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師包括管理料」が新設されており、かかりつけ薬剤師には、処方医と連携して一元的・継続的に服薬に関する情報を把握し服薬指導等を行う役割が期待されていることとなります。

いずれにしても、処方医は折に触れ添付文書に目を通しておくことが求められます。

（福岡県小児科審査員連絡会）